



TITLE:

<大會抄録>「イリ危機」とウイグル人

AUTHOR(S):

濱田, 正美

CITATION:

濱田, 正美. <大會抄録>「イリ危機」とウイグル人. 東洋史研究 1979, 38(3): 485-485

ISSUE DATE:

1979-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153741>

RIGHT:

「イリ危機」とウイグル人

濱田正美

一八八一年二月二十四日、露清兩國間のいわゆる「イリ危機」を解決するため、セント・ペテルスブルグ條約が調印された。この條約は、その第三條において、「伊犁の居民」に對し、ロシア領に遷居して、その國籍に入る自由を認めていた。當時、イリ谿谷には、タランチ（ウイグル）、トゥンガン（漢回）、シボ、モンゴル、漢などの諸民族が居住していたが、なかにあって、タランチとトゥンガンは、一八六四年の反亂に對する清朝の報復を恐れたが故に、その相當部分がロシア領に移住した。これら移住者のなかに、ムッラー・ビラールとサイイド・ムハンマドという二人のタランチ詩人が含まれていた。彼らは、一七七一年のロシア軍の侵入に對する抵抗、ロシア領への移住の経緯、移住後の生活の苦しみと望郷の思いなどを、詩に作っている。彼らの作品（「キタービ・ガザート・ダル・ムルキ・チーン」と「シヤルヒ・シカスタ・ナーマ」）を紹介しつつ、現在の中ソ國境問題の歴史的背景の一端を明かにしたいと考える。

ハンガイと陰山

吉田順一

北アジア遊牧諸族の君主の根據地は、ハンガイ山脈方面に置かれることが多かった。たとえば匈奴、鮮卑（拓跋部）、モンゴル（ア

ルタン・ハーン）は陰山山脈方面に根據地を置いたし、突厥、ウイグル、モンゴル（モンゴル帝國）はハンガイ山脈方面に根據地を置いた。柔然もおそらくそうであった。

このようにハンガイと陰山方面が根據地として選ばれた理由は種種あつて、それらが總合的に考慮された結果根據地として選ばれたのであろう。私は、そうした理由の一つとして、從來指摘されはしたが具體的説明のなされることのあまりなかった經濟面の理由に焦點を合わせて、この問題を解釋したい。

第一に、ハンガイが森林ステップであることに着目する。陰山も同じく森林ステップであつたことを論證する。そしてこの森林ステップがなぜ彼らの經濟にとって重要なのかをのべたい。

第二に、ハンガイと陰山が山であることのもつ意味を考える。この場合モンゴル高原において森林ステップは同時にほとんど山岳地帯であつたことにまず意味があり、またその山自體にもいくつかの有利な點のあることをのべたい。

中東現代史とイスラム

加賀谷 寛

イラン革命（イランでは「イスラム革命」とよぶ）は中東現代史におけるイスラム復興の勢いを示唆するものと注目されている。中東研究・イスラム研究の現状をみても、現代イスラムの諸展開の研究は遅れた分野であり、また一國內だけの發展に偏ってきた。

ここに中東のなかで、エジプト、トルコ、イランの三國を同時的